6　単元全体の構造図（知識の構造図）

考えて身につける知識

南アメリカ州は，どんなところだろう？
第５・６時　南アメリカ州の地域的特色について，表現することができる。

第１時	第２時	第３時	第４時
南アメリカ州は，どんな自然環境の特色があるだろう？ なぜ，サッカーのブラジル代表は多様な民族で構成されているのだろう？	南アメリカ州の産業には，どのような特色があるのだろう？	日本への輸出品はどのように栽培（採掘）され，運ばれるのだろう？	なぜ，経済が発展してきたにも関わらず，ファベーラがなくならないのだろう？

身につける知識

第１時	第２時	第３時	第４時
○南アメリカ州は，北部に広大な熱帯林が，南部には氷河地帯が広がり，熱帯から寒帯まで分布していることや，標高が高いアンデス山脈では，赤道が近くても気温が上がりにくいことに気づかせる。 ○先住民の他にも，ヨーロッパ諸国からの植民地支配，アフリカから奴隷として連れてこられた人々，アジアからの移民等，さまざまな地域と融合してきた歴史が南アメリカ州の文化を形成していることを理解させる。	○チリの銅，ベネズエラの原油等，南アメリカ州は鉱産資源に恵まれており，日本を含む多くの国々へ輸出されているという南アメリカ州の産業の特色をとらえさせる。 ○ブラジルは，かつてはコーヒー豆の輸出に依存するモノカルチャー経済の傾向が強かったが，近年では，経済発展を目指し，鉄鉱石・機械類・大豆等，輸出品目の多角化を図ろうとしていることに気づかせる。	○近年，ブラジルで栽培が盛んになった大豆栽培に日本が関わっており，このことがブラジル国内の環境問題につながっていることに気づかせる。 ○ブラジルから日本へ輸出される鉄鉱石の多くが，アマゾン奥地の鉱山から採掘されている事実から，私たち（日本）もアマゾンの熱帯林破壊に関わりがあることを気づかせる。	○スラム（ファベーラ）とはどういう場所であるのかを理解させる。 ○同じ国の中に都市部とスラム（ファベーラ）があることに気づかせる。 ○スラム（ファベーラ）は経済成長した国に共通して見られる傾向があることに気づかせる。

用語等

第１時	第２時	第３時	第４時
・アンデス山脈　・アマゾン川 ・パンパ　・セルバ ・植民地　・奴隷	・モノカルチャー経済 ・バイオ燃料 ・レアメタル	・熱帯林　・セラード	・スラム（ブラジルではファベーラと呼ぶ）